

2021年度 森林総合研究所 公開講演会

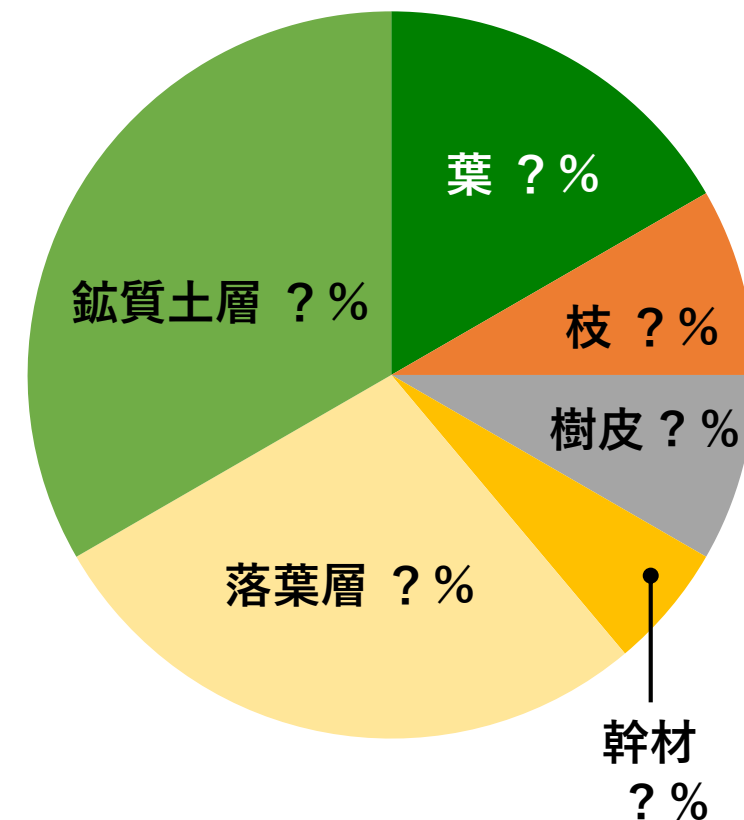
伝えたい！森の中の放射性セシウム

～10年で明らかになったこと～

原発事故後10年間の 森林内の放射性セシウム分布

震災復興・放射性物質研究拠点 坂下 渉

Q. 森林のどこに放射性セシウムが分布？



モニタリング調査の概要

調査地

- 福島県3町村（川内村・大玉村・只見町）

調査林分の優占樹種

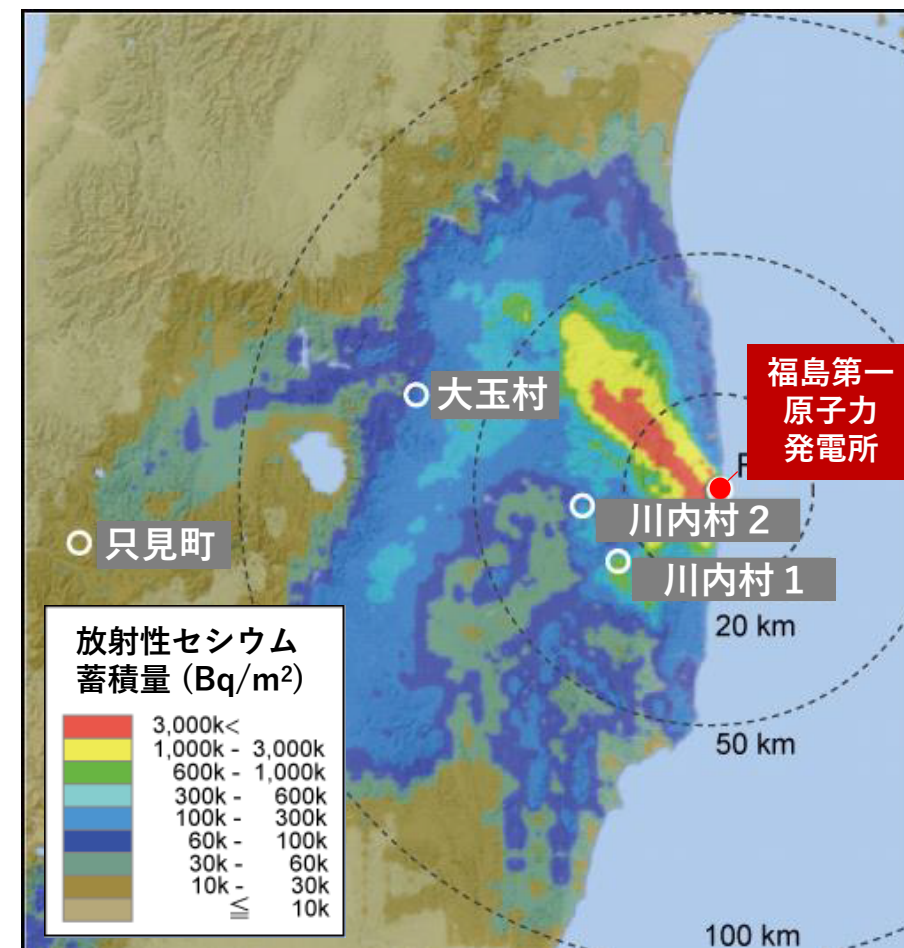
- スギ・ヒノキ・アカマツ・コナラ



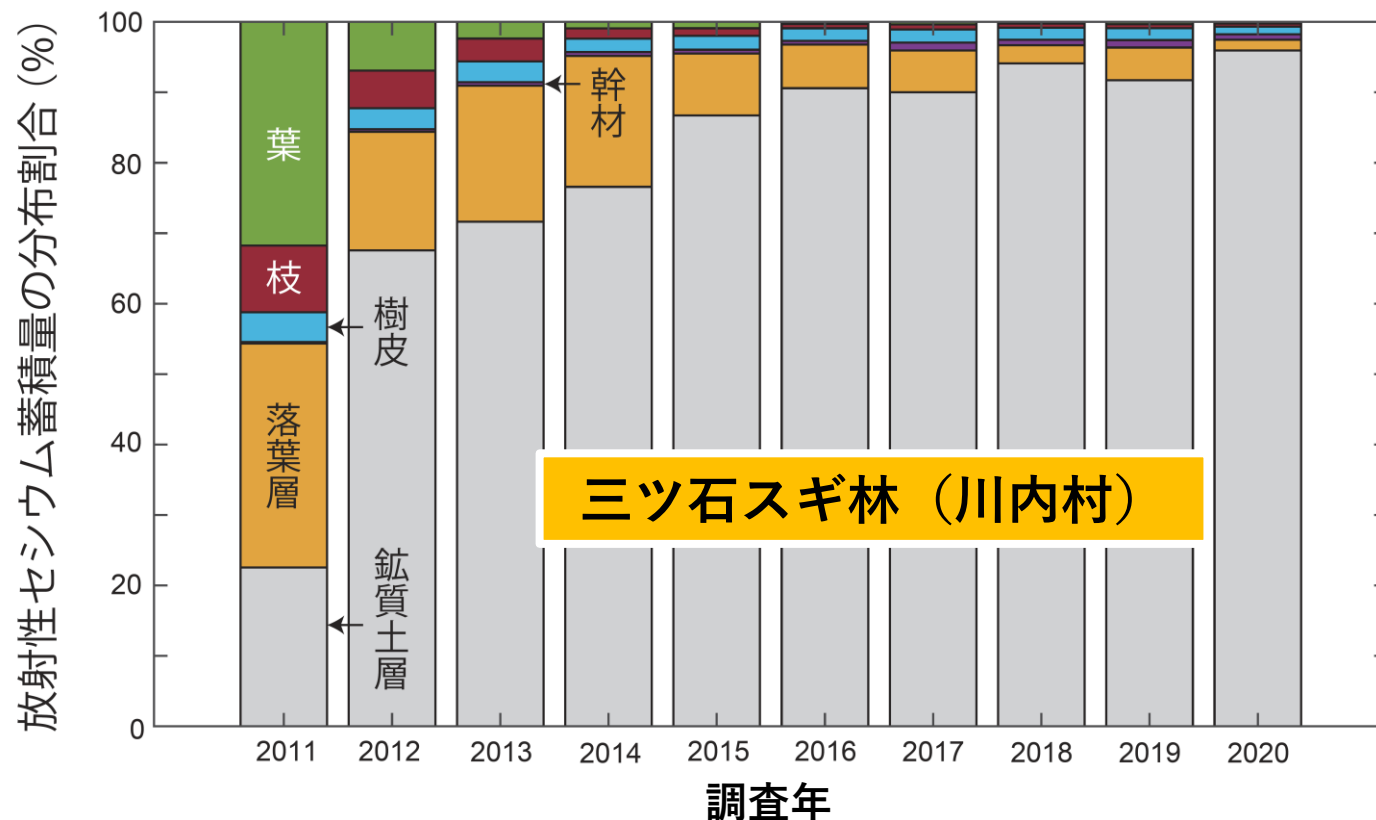
スギ林（川内村）



落葉広葉樹林（川内村）



事故後10年間の森林内の放射性セシウム分布の推移



- 事故直後の2011年は枝葉や幹材など地上部に4割以上が分布
- 時間経過に伴い地上部の割合は減少し、落葉層と鉱質土層の割合が増加
- 2020年には、9割以上が落葉層を含む土壌に存在

※ 林野庁（2021）
「令和2年度森林内における放射性物質実態把握調査事業報告書」での取得データより作成

※ 坂下（2021, 山林）を一部改編

原発事故後10年間の調査で分かったこと

- 原発事故後初期の1～2年間は、放射性セシウムの分布の変化が大きい
- 2020年現在は落葉層を含む土壤に9割以上の放射性セシウムが分布
- 時間経過に伴い、2016年以降放射性セシウム分布変化は小さくなってきている